

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 26 日現在

機関番号：17201

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2013～2014

課題番号：25884049

研究課題名(和文) 中世公家の和歌活動と歌学継承の研究 飛鳥井雅康・雅俊を中心に

研究課題名(英文) Study on the creation activity of medieval aristocrat's Waka and the succession of study : Focusing on Asukai-Masayasu and Masatoshi

研究代表者

日高 愛子 (HIDAKA, AIKO)

佐賀大学・文化教育学部・講師

研究者番号：20706741

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、飛鳥井雅康・雅俊に着目し、その和歌資料を調査・整理するとともに、詠作活動の違いから庶流と嫡流の在り方について考察した。中世期においてどのように公家が学芸を継承していったのか究明し、定数歌の検証から蹴鞠詠の果たした役割について明らかにした。また、新たに三条西実隆の草稿を見出せたことは、今後の研究にも寄与する成果だと考える。

研究成果の概要(英文)：I aimed at Asukai-Masayasu and Masatoshi, investigated material about their Waka and put it in order by this research. And I investigated the difference between branch families and main families from comparison of the activity that Waka is created. I made it clear how a medieval aristocrat succeeded to study and art by this research. And I investigated about "Teisuka"(the Waka which consists of the fixed quantity) and elucidated it about the role of the Waka created including the meaning of "Kemari"(the game which kicks a ball and competes for technique). I could find a new draft of Sanjonishi-Sanetaka. I think this is the important outcome which is also used for future's study.

研究分野：日本文学

キーワード：中世 和歌 蹴鞠 飛鳥井家

1. 研究開始当初の背景

飛鳥井家は歌道と蹴鞠道の家として幕末まで続いた。中世期の様相を見ているに、飛鳥井雅親(法号栄雅、1417-1490)が足利將軍家の師範であったのをはじめ、中央社会において飛鳥井家が果たした役割は大きい。その雅親から相伝を受けたのが、弟雅康(法号宋世、1436-1509)と息子雅俊(法号敬雅、1462-1523)である。雅康は雅親の猶子であったが、雅親没後に家督を継いだのは実子雅俊であり、ともに雅親から相伝を受けながらもそれぞれ庶流と嫡流として別の生き方をすることになる。一方で、両者ともに口伝や相伝資料が伝存し、地方の武家なども含めた文化的コミュニティのなかで飛鳥井流の相伝形式を大成させたと目される点でも注目される。

中世歌壇に関する主要な研究としては、井上宗雄『中世歌壇史の研究 室町前期〔改訂新版〕』(風間書房、1984年)・『中世歌壇史の研究 室町後期〔改訂新版〕』(明治書院、1991年)・『中世歌壇と歌人伝の研究』(笠間書院、2007年)、米原正義『戦国武士と文芸の研究』(桜楓社、1976年)などがあるが、雅康・雅俊に関して重点的に行われた研究は殆どない。そうしたなか、末柄豊氏によって「飛鳥井雅親・雅康の伝記史料の集成と研究」がなされ、東京大学史料編纂所所蔵史料を中心とする雅親・雅康についての記録史料の集成が進められたが、和歌資料については未整理のものが多く残されていた。雅康・雅俊に着目し、詠草資料などから庶流と嫡流の実態を検証することは、歌道家の中世社会における活動や和歌の果たした役割を考えるうえでも重要な課題だと考えた。

2. 研究の目的

本研究は、数多散在する和歌資料を整理し、体系づけること、中世期の公家が如何にして家の学芸を継承していったのかが明らかにすることを最たる目的とした。そのために、雅親の後継として生きた弟雅康(庶流)と息子雅俊(嫡流)に着目し、和歌資料を蒐集・整理し、以下の3点から、公家の学芸の継承の実態とその社会的意義について解明を試みた。

(1) 雅康・雅俊の和歌資料を蒐集、整理し、詠作活動の実態を把握する。

(2) 雅康の蹴鞠詠と蹴鞠書との関係性を考察し、歌道と蹴鞠道との相関関係および蹴鞠伝授や歌道相伝に関わる雅康の営為と社会的役割について検証する。

(3) 雅康と雅俊の和歌の相違を通して、庶流と嫡流のそれぞれの在り方について考え、中世期における家継承の問題について解明を進める。

3. 研究の方法

(1) 定数歌の伝本調査と検証

雅康・雅俊の定数歌として現存する百首・

五十首・三十首・二十首・十首について確認し得る伝本を全て調査し、書誌的事項や詠作時期などを整理した。

(2) 雅康の蹴鞠詠の伝本調査と検証

雅康の『蹴鞠百首和歌』および『鞠道三十首之和歌』の伝本の調査を行い、書誌的事項や本文異同について整理した。そのうえで、雅康の著した蹴鞠書との関わりのほか、定数歌との関連性について考察し、歌道と蹴鞠道の相関関係について検証した。

(3) その他詠草の集成と検証

『雅康卿詠草』および『雅俊詠草』の伝本について調査し、本文の異同等を整理した。加えて、『内裏御会』などの歌会記録から両者の詠草を集成、整理した。

これらの資料について整理した後、異同も含め、本文データをまとめることにした。

4. 研究成果

(1) 以下の定数歌について伝本調査を行った。

延徳二年百首

・宮内庁書陵部本(桂-1139)

・彰考館本(『耕雲宋世道堅良常親王雅庸百首全』所収。巳14-07355)

延徳三年春日社法楽百首

・学習院大学日本語日本文学研究室本(911.254 5015)

・宮内庁書陵部本(501-355)

・岡山大学附属図書館池田家文庫本(「宋世五十首」等と合写)

明応七年春日若宮社法楽三十首

・歴博高松宮文庫本(H-600-273 函8)

詠富士十首和歌

・歴博高松宮文庫本(自筆本)

明応八年五十首

・祐徳稻荷神社中川文庫本(6 2・2 287)

・岡山大学附属図書館池田家文庫本(「宋世百首」等と合写)

・内閣文庫本(『賜蘆拾葉』一集)

文龜二年住吉法楽二十首

・学習院大学日本語日本文学研究室本(911.254 5001)

文龜三年三十首

・祐徳稻荷神社中川文庫本(6-2.2-236)

・刈谷図書館村上文庫本(5727 34 9 丙一) 十首

・彰考館本(巳15-07395)

三十首

・学習院大学日本語日本文学研究室本(911.254 5016)

百首

・歴博高松宮文庫本(『類聚百首』所収、H-600-1454 函144)

百首

・島原松平文庫本(『哥書集』所収。119-6)

以上の雅康の定数歌について、国文学研究資料館にマイクロフィルムが所蔵される資料はそれに基づき本文等を確認し、岡山大学附属図書館池田家文庫および祐徳稻荷神社

中川文庫は実地調査を行い、それぞれ本文データを作成した(の書陵部本・学習院大学本のデータ入力については研究協力者であった九州大学大学院修士課程の院生1名の協力を得た)。そのうえで、本奥書等の情報から詠作時期を整理し、庶流としての雅康の家における位置付けや在り方について定数歌に詠まれる内容から分析を試みた。その結果、雅康の定数歌が晩年に集中して詠まれていること、その内容から嫡流である雅俊との確執や庶流ゆえに生じる心中での葛藤、雅康の歌道家としての家意識、更には「道」に対する精神性がだいに強調されていく経緯について明らかにできた。この成果は第64回西日本国語国文学会で発表し、『西日本国語国文学』2号に論文としてまとめた。

また、明応八年に詠まれた五十首については、『文献探究』52号にまとめた。この五十首は、同年五月に始祖雅経や父雅世の事績を慕って富士遊覧へ赴いた後、余韻覚めやらぬ時期に詠まれたものであり、歌内容からも雅経や雅世への敬慕の念が看取されることを指摘した。

大永四年五十首(伝雅俊作)

- ・祐徳稲荷神社中川文庫(6 2・2 1263)
- ・永正八年雅俊百首
- ・彰考館本(巳 8)
- ・宮内庁書陵部本(501 771)
- ・宮内庁書陵部本(256.1105)
- ・神宮文庫本(三 1404)
- ・歴博高松宮家本(H-600-555 る函278)
- ・歴博高松宮家本(H-600-357 ふ函108)

以上の雅俊の定数歌について、国文学研究資料館にマイクロフィルムが所蔵される資料はそれに基づき本文等を確認し、祐徳稲荷神社中川文庫は実地調査を行い、それぞれ本文データを作成し、本文異同等の伝本整理を行った。

その結果、祐徳稲荷神社中川文庫に「雅俊五十首」として蔵される五十首が雅俊作ではなく三条西実隆の詠草であることが判明し、宮内庁書陵部蔵『集雪追加』に同五十首中四十八首が収録されていることがわかった。祐徳本には書入れや歌の改変があり合点が付されるが、これらの修正箇所は『集雪追加』の本文に殆ど反映されている。『実隆公記』の記事から、『集雪追加』は禁裏への献上本(清書)本文と認められる。一方、祐徳本に見られる書入れや改変は、草稿本を忠実に転写したものであり、実隆の草稿や推敲跡を残す貴重な資料であることが明らかになった。また、『実隆公記』や『再昌草』の記事も合わせて考えるに、実隆五十首には岩山道堅の関与が認められる。実隆と道堅は共に足利義尚の打聞編纂に関わったことから、義尚追悼の一環として五十首を完成させたのであり、道堅が献上本の清書にあたったことが推測される。なお、「雅俊五十首」として祐徳稲荷神社に蔵された経緯としては、肥前鹿島藩第四代藩主鍋島直條が京都で『雅俊詠草』等

と併せて本書の書写を所望し、その際に直條が雅俊作と誤認して識語と外題を記した可能性が高いことを指摘した。これらの内容は、第60回和歌文学学会大会で発表し、『和歌文学研究』110号に論文としてまとめた。

(2) 雅康の蹴鞠詠について以下の伝本調査と検証を行った。

蹴鞠百首

- ・宮城県伊達文庫本(伊911.25 44)
- ・宮内庁書陵部本(『続群書類従』所収、453.2)
- ・初瀬川文庫本(8 271)
- ・国立国会図書館本(W426-3)
- ・架蔵本

蹴鞠三十首

・宮内庁書陵部本(『続群書類従』所収、453.2)
本研究を進めるなかで卷子本仕立ての蹴鞠百首を入手し、伝本のなかに新たに加えることができた。なお、蹴鞠三十首は蹴鞠百首の抄出本である。蹴鞠百首にみられる歌のなかで、「松」「四本」「飛鳥」「難波」といった蹴鞠(蹴鞠の宗匠家)を象徴させる詞に注目し、(1)で考察した雅康の定数歌との関わりについて検証した。定数歌にも「松」がよく詠まれるが、それらは蹴鞠道あるいは雅康自身を意味することが多い。また定数歌にみる「飛鳥河」「難波津」といった歌語のなかにも蹴鞠道の意が含まれている。最晩年に作られた「蹴鞠百首」も、仁和寺僧の所望によるものではあるが、こうした定数歌に見られるような蹴鞠詠の延長線上に位置付けられるであろう。

(3) その他詠草資料として以下の伝本調査と検証を行った。

雅康詠草

- ・大阪市立大学図書館森文庫本(911.149 ASU)
- ・早稲田大学図書館本(へ04 07622)
- ・雅俊詠草
- ・祐徳稲荷神社中川文庫本(6 2・2 249)
- ・刈谷市中央図書館村上文庫本(『梅処漫筆』26所収、抄出本)

このうち、村上文庫本は国文学研究資料館のマイクロフィルムにより確認を行い、早稲田大学図書館本・大阪市立大学図書館森文庫本はそれぞれ各大学図書館の公開画像を使用、祐徳稲荷神社中川文庫本は実地調査を行った。雅俊詠草の伝本は他に井上宗雄氏旧蔵本があるが、井上本の本文はこれを底本としている『私家集大成』を用いて、伝本間の本文の検討を行い、それぞれ本文データを作成した(データの入力作業は研究協力者として福岡大学博士後期課程の院生1名の協力を得た)。

井上宗雄『中世歌壇史の研究 室町後期〔改訂新版〕』(明治書院、1987年)では、雅俊自筆とされる井上氏旧蔵本の忠実な転写本が祐徳本であると指摘されるが、両本の本文を具に見比べると相違も認められる。抄出

本である刈谷市中央図書館村上文庫本の本文と比較すると、祐徳本はこれと近い本文も存する。一方、抄出本は詠草月日や歌会に関する記述を省き、歌題のみを記す傾向にある。以上の三本に共通して存する大永四年分は、雅俊が大内義興を頼って周防へ下向した後の詠草であり、義興を中心とする大内文化圏と雅俊との関わりをここから知ることができる。義興のほか、詠草から確認し得る人物として、大内被官の内藤護道・弘中興勝がいる。98番歌に見える「吉見源六」については未詳だが、家臣の吉見家の人物であろうと想像される。この成果は翻刻紹介も兼ねて『文献探究』53号にまとめた。

なお、京都府立総合資料館蔵『内裏御会』についても紙焼き資料を取り寄せ、雅康・雅俊の詠草集成としてデータの蓄積をはかったが、資料の量が多いために十分な分析にはいたらなかった。今後の課題として、御会資料の集成および検証作業を引き続き行っていくこととする。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

日高愛子、飛鳥井雅康の定数歌とその晩年、西日本国語国文学2号、2015、査読有、pp.未定

日高愛子、実隆五十首の成立と道堅、和歌文学研究110号、査読有、2015、pp.40-51

日高愛子、〔翻刻〕祐徳稻荷神社中川文庫蔵『雅俊詠草』附校異・解題、文献探究53号、査読無、2015、pp.13-24

日高愛子、飛鳥井雅康の「詠五十首和歌」について<付>祐徳稻荷神社中川文庫蔵本翻刻、文献探究52号、査読無、2014、pp.17-27

[学会発表](計3件)

日高愛子、「飛鳥井雅俊卿五十首和歌」の再検討「集雪追加」との重複歌をめぐって、和歌文学学会大会第60回大会、2014年10月19日、青山学院大学

日高愛子、飛鳥井雅康の定数歌とその晩年、第64回西日本国語国文学学会、2014年9月14日、梅光学院大学

日高愛子「飛鳥井雅康・雅俊の五十首和歌に関して」第35回古典研究会、2013年12月8日、福岡大学

6. 研究組織

(1)研究代表者

日高 愛子(HIDAKA AIKO)

佐賀大学・文化教育学部・講師

研究者番号：20706741